

！ 緊急生育速報 ！

平成30年7月11日
JA越後さんとう

- ① 6月下旬以降、高温・多照の気象傾向が続いたことから、コシヒカリの生育が早まり「幼穂形成期」（出穂 25 日前）を迎えています。今週末頃からコシヒカリ 1 回目の穂肥適期となる見込みです。
- ② 葉色低下が進んでいます。必ず圃場ごとの生育診断（草丈×葉色）を行い、葉色の淡い圃場では遅れずに穂肥を施用して下さい。

コシヒカリの生育状況（7月10日調査：調査地点平均値）

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	71.3	441	10.8	35.6
和島	5/5	66.4	413	10.7	37.3
出雲崎	5/5	71.4	411	11.0	37.1
与板	5/11	75.7	509	10.7	35.3
三島	5/9	67.3	449	10.3	34.0
こしじ	5/13	67.6	412	10.9	38.4
平均	5/8	69.4	433	10.8	36.4
指標値	5/10	66.0	450	10.9	36.0

草丈：並～やや長い	茎数：やや少ない
葉数：並み	葉色：並み

【草丈】

6月末から7月上旬の高夜温により、草丈伸長大きくなっています（+2.0cm/日）

【葉色】

高温・多照の気象が続いたことから、葉色低下が進んでいます。→葉色値（SPAD）が“35”を下回っているほ場では栄養凋落～品質低下が懸念されます

後期栄養確保対策

① 1回目（出穂前 18 日頃）の穂肥対応

今週末頃から、コシヒカリの 1 回目（出穂前 18 日頃）の穂肥時期を迎えます。今後、高温・多照の日が続くことから遅れずに穂肥を施用しましょう。

生育診断チームを活用して、

みんなで“診活”しよう！



② 2回目（出穂前 10 日頃）の穂肥対応

高温気象下での栄養不足による品質低下を防止するため、出穂 10 日前の穂肥は早生品種も含め“しっかりと確実に施用”して下さい！（窒素成分：1～1.5 kg/10a 程度）→一発元肥を散布したほ場でも葉色低下が懸念される圃場では、追加穂肥を検討しましょう！（特栽米は使用基準の範囲内とする）

③ 飽水管理の継続

幼穂形成期以降は、極端に強い中干し（断根を助長）、長期間にわたるタメ水は絶対に行わないようにし、地体力が確保できる限り登熟後期まで飽水管理を継続しましょう。

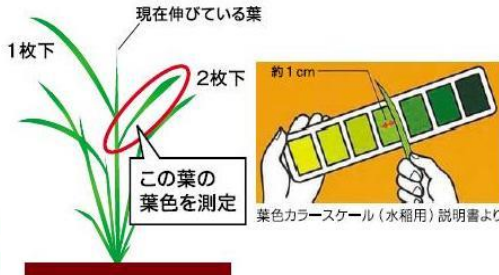
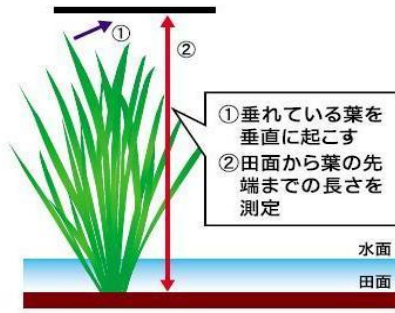
★★★ 必ず圃場ごとに草丈と葉色で「穂肥を施用する時期と量」を診断しましょう！ ★★★

コシヒカリ生育診断 手順1

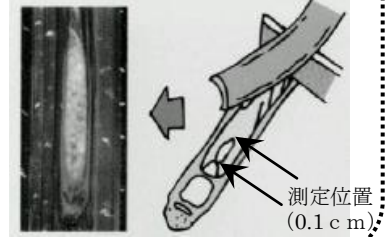
幼穂形成期（幼穂長0.1cm、出穂24日前の頃）に草丈と葉色を測定

草丈：平均的な生育場所で連続
10株の平均値を測る

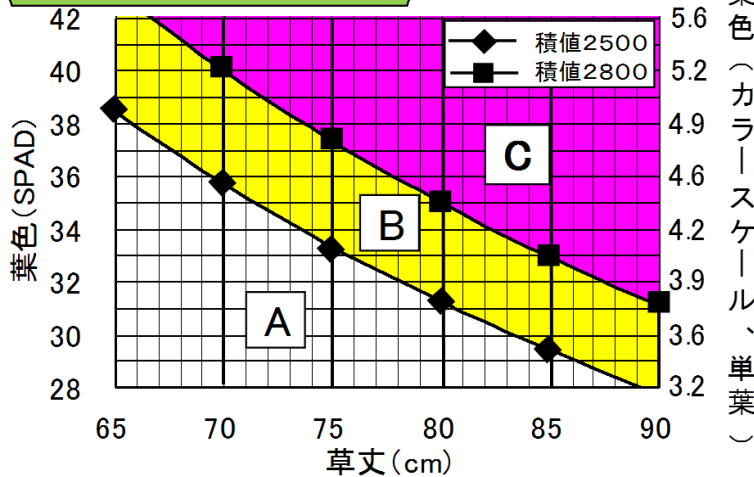
葉色：平均的な株から最も長い茎
を選び現在伸びている葉の
2枚下の葉を測定する



幼穂形成期（幼穂長0.1cm）に
草丈と葉色を測定します！



コシヒカリ生育診断 手順2



草丈と葉色からグラフのエリア(A,
B, C)を確認し、下表により穂肥時
期・施用量の判断をします！
葉色を極端に褪めさせない“穂肥対
応”が重要です。



このレベルの葉色値をキープするこ
とが重要です。



コシヒカリ生育診断 手順3

梅雨明けし、高温が予想されることから今年はこのエリアで診断する

幼穂形成期の生育量 (草丈cm × SPAD値)	生育量 早見グラフ のエリア	幼穂伸長期間の気象予報別の穂肥対応		
		低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
2500未満	A	○△時期遅め、 量を控えめ	◎出穂18日前に 基準量	◎出穂18日前に基準量
2500以上2800未満	B	× 施用しない	× 施用しない	○出穂15日前に基準量
2800以上	C	× 施用しない	× 施用しない	× △ 施用しない ただし、異常高温の場合 は、15日前に基準量

●● 水稻の“生育診断”はJAにお任せください！ ●●

生育診断チーム 設置期間：7月上旬～7月下旬まで

～ 詳細につきましては、お気軽に最寄りの営農センターへお問い合わせください！～